

ベルマーク新聞 1月号

発行 公益財団法人 ベルマーク教育助成財団 東京都中央区築地5-4-18 汐留イーストサイドビル7階 〒104-0045 電話 03-5148-7255(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

ベルマーク、デザインでPRしたら…

第68回朝日広告賞、財団からの課題への応募作品



ここに掲示した写真、何だかわかりますか？

新聞広告のデザインを競う、伝統あるコンテスト「朝日広告賞」。その一般公募の部は、企業・団体などから出された課題をもとに、若きクリエイターたちが腕をふるって作品を作ります。ベルマーク財団も以前から課題を提供しており、2019年度は「ベルマーク運動への理解と共感を誘う広告」と題して「ベルマーク運動は誰にでも

できて、子どもたちの未来を応援する社会貢献活動であることを表現してください」と求めました。

写真は、この財団の課題に応じて応募された作品です。新聞というメディアの特性を生かした形で、どれも様々な工夫を凝らした作品に仕上がっています。

ベルマークのことを訴えようと知恵を絞っているクリエイターたちの様子がうかがえるような気がします。ど

れも本当に素敵な作品です。財団の課題への応募、ありがとうございました。



朝日広告賞は1952年の創設以来、優れた新聞広告を顕彰し、若手クリエイターの育成と広告文化の発展に寄与してきたといいます。詳細については同賞のホームページ(<https://www.asahi-aaa.com/>)をご覧ください。

2021年もよろしくおねがいします

あけましておめでとうございます。

去年は、新型コロナ禍に明け暮れた1年でした。3月からの一斉休校、緊急事態宣言、第2波・第3波の到来……。『ソーシャルディスタンス』『新しい生活様式』などの言葉が常用されるようになり、感

染拡大を防ぐ合言葉「3密」は流行語大賞になりました。

そんな年でしたが、財団には毎日、ベルマークが届きました。参加団体以外にも「支援に生かして」と寄贈マークが送られてきました。「子どもたちのために」

という強い思いが伝わってきます。大変な状況の中でも活動して下さる皆様に、本当に感謝します。

ベルマークを貯めると学校の備品を買うことができ、同時にハンディのある学校への支援につながります。皆様の活動

の成果によって財団は昨年、へき地校や特別支援学校、災害被災校、院内学級、日本人学校など計300校を支援することができました。

それでは、2021年もベルマーク運動をよろしくおねがいいたします。

「ベルマーク貯金箱」親子で使って効率アップ

佐賀市立高木瀬小、集計方法にも独自の工夫



① 貯金箱が出来てから「子どもが自分から進んでマークを持っていくようになった」という反応もあったそう
② 収集用封筒は児童のボランティア委員が確認のスタンプを押し、返却する
③ 武藤さんは「ダンボールと牛乳パックのシンテラフィット」と話す
④ 武藤千亜紀さんとお子さんの亮太さん(6年) ⑤ 財団に届いたマーク

佐賀市立高木瀬小学校(原口弘之校長、806人)はベルマーク運動が盛んで、累計点数は700万点に迫り、県内では断トツのトップです。とはいえ活動に問題がなかった訳ではありません。

「4年前に初めて委員になったとき、作業量の多さが気になりました」と話すのは、今年度PTA環境委員長を務める武藤千亜紀さん。当時は、全委員が月1回学校に集合、マークを自宅に持ち帰ってテープで貼り、それを再度回収して集計……という流れでした。

2年後、再び環境委員になり、「ベルマーク運動説明会」に参加。そこで初めて、活動の意義を認識しました。

そして2020年度、武藤さんは委員長に立候補。「ベルマーク貯金箱」と「数えるだけ集計」、「エクセル集計表」

の導入を決めました。「ベルマーク貯金箱」は縦に置くとマークを集める貯金箱に、横に置くと仕分け作業時の整理箱になる優れもの。軽くて持ち運びも簡単です。「数えるだけ集計」は、マークの切り直しやテープでの貼り直しをせず、点数明細を記録したらビニール袋にまとめる手法。「エクセル集計表」は、枚数を入力すると自動的に各社の合計点数が計算されます。

活動は月1回、今年度は1回につき3～4学年のみの集まりとしました。工夫を取り入れると、全委員でなくても約3時間で発送まで終わられました。

改革はさらに続きます。以前から「親子のふれあい」に関心があった武藤さんは、新たな活動にも挑戦しました。マークを貯金箱に仕分ける「参加活動」には、ボラン

ティア委員の6年生や全学年から興味のある児童が参加します。9月からは、昼休みの15分間に保護者と児童と一緒に仕分けをする「ふれあい活動」もスタート。また「エコ活動」として収集用封筒の自作を始めました。

高木瀬小がベルマークで次に買いたいものは手動の鉛筆削り。児童のボランティア委員会が「電気代がかからずエコだから」と選びました。武藤さんの思いが子どもたちにきちんと届いています。

武藤さんは、ベルマーク運動に参加する他校に伝えたいこととして、こう語ります。「マークは綺麗に切らなくても、テープで貼らなくても大丈夫。そして、親子での作業や、子どもが主体的に携わることで、点数の価値以上のものが得られる活動になりました」

子どもも大人もできるボランティア、継続

北海道・士別ベルマークの会による寄贈マーク活動

北海道士別市のボランティアグループ「士別ベルマークの会」は、市民や地元企業・団体からベルマークを集め、保育園やベルマーク財団に寄贈しています。コロナ禍の昨年も「豪雨被害を受けた学校のために」と活動を続けました。

会の代表は平賀尚子さん。「2018年に会を立ち上げ、市社会福祉協議会のボランティアセンターに登録しました」。活動はツイッターやフェイスブックで情報発信しています。回収箱を社協窓口と図書館に置き、毎年7月に開かれる社協主催の「ふれあい広場」にもブースを出しています。「昨年の広場はコロナで中止になり、残念です」と平賀さん。

それでも7月豪雨の被災校のために役立てようと、社協や地元紙を通じてベルマーク収集を呼びかけました。仕分け・集計要員も募集、50～70代の11人が協力してくれました。社協の会議室でお互いに距離を取りながら作業をしたそうです。その結果1万7718.3点が財団に送られ、ベルマーク新聞12月号の寄贈者リストに会の名が載りました。

この会には、実は長い前史があります。平賀さんは中学の代替教員や高校の時間講師を務めた経験があり、市内の中学校で相談員をしていた2000年に、不登校などを経験した子どもと保護者の会「や



⑥士別ベルマークの会のみなさん。前列中央が代表の平賀尚子さん ⑦同会のツイッター画面。コロナ禍の昨年も「豪雨被害を受けた学校のために」と活動を続けた
⑧昨年の仕分け・集計作業の様子

まびこネットワーク」を立ち上げました。その活動の中で「子どもも大人もできるボランティアとして、ベルマークを集めるようになりました」。2010年には財団に参加登録。貯めたベルマーク預金は「人のために役立てよう」と、すべて財団の友愛援助に寄付しました。

市が不登校児の教室を作ったことに伴い、やまびこネットワークは解散しましたが、ボランティアとしてのベルマーク

活動を引き継ぐため、新たに作られたのが「士別ベルマークの会」です。社協地域福祉係主事の古川芽衣さんは「解散時にマーク収集も終わりにする選択肢もあったかもしれませんが、活動を続けていることは素晴らしい」と話します。

活動の輪は広がりを見せています。「災害に遭われた人のために」と長年集めたマークを届けてくれる人がいたり、地元企業や団体からマークが贈られたり。一



昨年は平賀さんが市立士別南小学校(鈴木康弘校長、児童315人)で、ベルマークについて話す機会がありました。3年生の総合的な学習で、支援につながる仕組みやマークの仕分け方を説明したので

。「ウィズコロナを意識して今年は活動しました。ベルマークは今も集まってきているので、来年もまたやらなくちゃ」と平賀さんは意気込みを語りました。

22年貯めた預金で、一気に18種の遊具

岡山・天城保育園、「サーキット遊び」を導入

折りたたみ式鉄棒、幼児用の低床型平均台、カラフルなマットやとび箱、縄付きのなわとびボール……。岡山県倉敷市の天城（あまき）保育園（森分久恵園長、園児171人）は昨夏、22年貯めてきたベルマーク預金から64万円超を使い、18種類もの遊具を買いました。

買い物のきっかけは、同園を訪れた発達支援アドバイザーが提案した「サーキット遊び」。様々な遊具を置き、登る、くぐる、跳ぶなどの動作を組み合わせることで、子どもたちの運動能力の発達を促す方法です。でも園の遊具は古くて種類も少ないのが現状でした。

そこで森分園長が思い出したのがベルマーク。毎年コツコツと集めていましたが、最後にお買いものをしたのは1998年。その後22年間は貯めるだけで、ベルマーク預金は78万円も蓄積されていました。森分園長が保護者でつくる後援会に相談。快諾を得て、各クラスの先生が希望の品を出し合いました。

園近くのグラウンドで10月に開かれた運動会では、



年中組の35人が購入品の一つ、プレイバルーンを使った演技を披露しました。パラシュートのような丸くてカラフルな布を、集団で操作して膨らませたり回したりする遊具です。他の競技でもベルマークで買った品が大いに活用されました。保護者からは「ベルマークがこんな



風に使われるんだと分かりました」という感想があったそうです。森分園長は「10数年の積み重ねが今回の購入につながり、ベルマークのありがたさを実感するとともに、今まで集めてくれた保護者の皆様にも感謝しています」と語りました。

「感謝の気持ちをもって頑張ります」

原発避難の福島・富岡町立富岡第一・第二中(三春校)

今年度の東日本大震災支援対象校、福島県富岡町立富岡第一・第二中学校（三春校）から写真が届きました。

原発事故で避難した富岡町の二校の生徒と一緒に学んでいる学校です。全校生徒は3人。それぞれがCDラジオ、ミニキーボード、バドミントンシャトルを持って、にっこり笑っている姿が写っていました。3人とも2年生で、卒業する来年度末に同校は閉校することが決まっています。設楽芳浩校長は「今回の支援は大変ありがたく、感

謝の念に耐えません」、大河原康隆教頭は「たくさんの支援を頂いていることに感謝の気持ちを持ち、たくましく、力強く生き抜いてほしい」と話しました。

2011年3月、福島第一原子力発電所事故により富岡町での学校教育の継続は困難となりました。2017年4月に一部の帰還困難区域を除いた町内の避難指示が解除され、翌年4月には「富岡校」が再開。設楽校長は、富岡校と三春校を往来して職務に当たっています。



とび箱、カメラ、大型扇風機…活用してます！

今年度支援したへき地校からメッセージ届く

ベルマーク財団が今年度支援したへき地の学校から、感謝メッセージと購入した備品を活用している写真が届いたので紹介します。

北海道の鹿追町立笹川小学校からは、スポンジと布材でできた3段の「セフティ跳び箱」の写真が届きました。体育の授業で活用しているそうで、高嶋幸太教頭は「低学年や跳び箱を苦手とする児童には、安全に使用することができ、学習意欲が向上しています」。



十勝平野の北西部にある鹿追町は「真冬は氷点下15度くらいまで気温が下がります」（高嶋教頭）とのこと。町の名物は北部の山岳地帯にある然別湖。厳寒期には、凍った湖面上に雪と氷による臨時の村「しかりべつ湖コタン」が作られることで有名です。

長野県の天龍村立天龍中学校は、大型プリンターとデジタルビデオカメラを購入。全校生徒で合唱練習する際にカメラ

を使うと、自分たちの歌声をすぐに振り返って確認できたそうです。11月にあった村の文化祭で、生徒たちは鍛えた歌声を披露したそうです。



ビデオカメラには思わぬ効用もありました。コロナを契機に普及した「リモート」の手法で、東京の村出身者とシンポジウムを開いた際、「カメラをパソコンにつなぎ、生徒一人一人にズームさせて使うことができました」と宮下健治教頭。コロナ禍の中、カメラの出番は今後さらに増えそうです。

島根県の邑南町立矢上小学校からは、子どもたちが逆上がり練習器を使って元気に鉄棒を練習している写真が届きました。他にデジタルカメラや卓上マイクスタンドなども購入しましたが、「使っている姿が分かりやすいから」と、これらの写真を選んだそうで、子どもたちの生き生きとした様子が伝わってきました。

松川成治校長によると、同校の授業は「ふるさと学習」を取り入れているのが

特色です。「地域の自然や産業を活用しての授業です。米作りやお年寄りの交流をしています」



徳島県の阿南市立椿泊小学校から届いた写真は、11月にあったPTA親子参観日で、財団が寄贈したプロジェクターを使用している場面です。元々あった古いプロジェクターは光源が弱く、映像がはっきりと見えなくて困っていたそうです。



米田茂生校長は「へき地にある少人数校なので、アットホームな雰囲気の学校

です。プロジェクターは今後も、DVDの視聴などの学習活動に活用させていただきます」と話してくれました。

宮崎県の延岡市立三川内小中学校は、大型扇風機と大判プリンターを活用している写真を送ってくれました。学校があるのは内陸部。「夏は暑く、冬は寒いところ」と小学部の内村貴久教頭。空調の入っていない体育館で、扇風機はとても重宝したそうです。空気を動かすことでコロナ対策にもなります。



同校の校庭フェンスには、「きらきら」「にこにこ」「ぐんぐん」という3つの言葉が大きく掲げられています。「小さい子も含め、みんなで共有できるスローガンです」と内村教頭。その言葉通り、みんなコロナ禍なんかに負けず、きらきらと輝いて、にこにこと笑いながら、ぐんぐん育ってほしいと思いました。

コロナ禍の1年、でもマークは収集

調布市職員のボランティアクラブが寄贈

東京都調布市の市職員でつくるボランティアクラブ(20人)から、今年もベルマークが寄贈されました。

クラブの会長で総務部危機管理担当部長の大貫貞夫さんと、子ども生活部児童青少年課放課後児童係長の山崎守さんが12月18日、ベルマーク財団を訪れ、1年間集めたベルマークを手渡しました。

調布市では各職場や市役所入り口、文化会館などに回収箱を置き、職員や市民からベルマークを集めています。例年は、あいおいニッセイ同和損害保険(ベルマーク番

号92)の府中支店と連携して収集活動し、クラブから寄贈する分は仕分け・集計も済ませていました。今年はコロナ禍でもあり、仕分け・集計の作業は省略しましたが、集めた全量を持参したとのことでした。

ボランティアクラブはベルマーク収集のほかに多摩川クリーン作戦などの活動もしているそうです。大貫さんは「集めたマークがみなさんのお役に立てばうれしいです」と話しました。



ベルマークを持参した調布市の大貫貞夫・総務部危機管理担当部長(右)と山崎守・子ども生活部児童青少年課放課後児童係長

「東北キャンペーン」応募数伸びて16万点

キリンビバレッジ東北地区本部が財団に寄贈

協賛会社キリンビバレッジ(ベルマーク番号54)の東北地区本部は「ベルマークを集めて!東北の元気を応援キャンペーン第2弾」「ベルマークを集めて!東北の元気を応援キャンペーン第3弾」で集まったマーク計16万2837点を財団に寄贈しました。12月10日に、財団事務所に関係者が集まって寄贈式がありました。

どちらのキャンペーンも東北6県を対象に、キリンビバレッジの「生茶」「生茶デカフェ」「小岩井純水果汁」「キリンレモン」「ラブズスポーツ」のベルマークを4点分集めて応募すると、抽選で賞品が当たるものでした。第2弾は1月から2月にかけて、第3弾は8月から9月にかけて行われ、計約4万通の応募があったそうです。キャンペーンは東日本大震災の被災地にある学校を

支援する目的で、2019年7月に第1弾が実施され、回を重ねるごとに応募数を着実に伸ばしてきました。第3回では2万5000通もの応募があったそうで、キリンビバレッジ東北地区本部長の佐藤龍二さんは「震災から10年となりますが、子どもたちへの思いが顕著に表れたのだと思います。コロナ禍でも出来る社会貢献としてのベルマーク運動の関心への高さも感じました」と言います。寄贈式で佐藤さんは「東北の未来を担う子どもたちのために活用してください」と話し、目録を受け取ったベルマーク財団の高木文哉常務理事は「善意に感謝します。遠路はるばるありがとうございました」と答えました。なお、この日の寄贈式は、東日本放送と福島民報も取材してくれました。



左から、キリンビバレッジ東北地区本部営業企画部営業企画担当の青木敬さん、ベルマーク財団の高木文哉常務理事、キリンビバレッジ東北地区本部長の佐藤龍二さん

ベルマーク寄贈者・友愛援助リスト(敬称略)

〈震災寄贈〉 11月21日～12月20日

▼北海道 医療法人社団ほっとステーション 大通公園メンタルクリニック 琴似中生徒会▼岩手県 イオンスーパーセンター労組▼宮城県 工藤康博 NTTファイナンス(株)東北総合料金センター料金企画部 キリンビバレッジ(株)東北地区本部▼山形県 NECエンベデッドプロダクツ(株) 山形典子・鈴木美佐子▼福島県 加藤順子 (株)福島銀行▼群馬県 荒木洋子▼埼玉県 稲垣治子 森戸玲子 向井由美▼千葉県 関田元子 伊藤有紀 柴野郁馬 市川友子▼東京都 小野木幸恵 金井亮 (株)栃木屋 日本基督教団小金井緑町教会 根本美穂 平沼美穂 有山雅美 川崎君栄 坂本宏美 パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)本社 藤波 六郷美佐子 J&Jへの愛をささやく 匿名希望▼神奈川県 うず 湘南新聞販売(株) 野庭団地地区社協 (公財)スコレ家庭教育振興協会 尾関孝太 匿名希望▼富山県 富山県立高岡工芸高生徒会 銀の車輪▼山梨県 やまなし観光推進機構 甲府市立里垣小児童会▼岐阜県 井貝美奈 金城正宗 匿名希望▼静岡県 堀田史子▼愛知県 伊藤武尊 桐田緑 長江政則 堀部悦子 Hawkclaws 吉本早苗 五十嵐佳奈 パナソニックシステムソリューションズジャパン(株)中部社▼三重県 柴田喜健 藤森澄子▼京都府 林 匿名希望▼大阪府 三宅紀子 安藤育子▼奈良県 長嶺明日香▼鳥取県 尾崎由佳▼広島県 松尾真希▼山口県 木船一宝▼香川県 四国労働金庫労組▼高知県 匿名希望▼福岡県 NPO法人大宰府アートのたね 藤まさみ▼熊本県 中原早季子▼無記名＝20件

〈一般寄贈〉 11月21日～12月20日

▼北海道 高坂恵 高橋明美 中村和子 久保田こずえ▼秋田県 能山ベルマーク応援隊▼山形県 石倉みえ子▼茨城県 竜ヶ崎第一高2年相田陽輝・山本結胤・森園仁子・高橋美月 匿名希望▼埼玉県 飯山綾 藪陽一 たかトモ どんぐり文庫原賀絵三子▼千葉県 白倉サイ子 関根ひとみ 宮澤恭子 長田幸代 藍場英

光 (株)オレンジロード 子山ホーム 飛田サチ子 匿名希望▼東京都 青山邦一 小野楽夢里 加藤良治 (株)ジェー・シー・スタッフ 東京海上ビジネスサポート(株) 直江成子 野口晴代 平野美穂 堀澤淑江 新城深里 石井りさこ 石原光子 和泉産業(株) 齊藤ブブ 佐俣典之 ジャパンパイル(株)社会貢献委員会 鈴木和子 寺田真人 中村攝子 藤原輝子 水野頼江 三井住友信託銀行小金井支店 伊藤雅美 佐藤和恵 調布市役所▼神奈川県 佐藤和香子 原田征一郎 秋間佐治子 石黒琢一郎 城南信用金庫新横浜支店 森重久美子 第一生命保険(株)神奈川営業局▼新潟県 (株)東芝新潟支店 田辺美香 地域密着型複合施設わしま 美少女戦士セーラームーン▼富山県 浅野彩子 松原恵莉奈 米納睦子 清水紘平▼石川県 新田一郎 サトミ 助田紗英▼長野県 塚田康子▼静岡県 島彩子 畠中将也 増田 西岡玲子▼愛知県 梅村 森島春恵 守谷玲子 高田玲子 渡辺映始 池田照美▼三重県 アイスター商事代理店川口節子 岡田夏海 藤田拓也 松阪市社協 嬉野支所生活介護利用者・職員一同 佐藤恭美▼京都府 西村知恵 清野利夫 田中稔 西田恵子 湯之上雅子 林 (旬)時代工房(株)スタジオニクロム▼大阪府 大場さやか 岡原忠子 川村早苗 澤野久仁子 住友生命保険相互会社茨木支社 加藤紀子 匿名希望▼兵庫県 アイスター商事代理店藤井由美子 神戸海岸特養ケアセンター 谷左官店 古田泰▼奈良県 サークルべるちゃんボランティア▼和歌山県 倉西千草▼鳥取県 永原千恵 (旬)タイセイ通信▼岡山県 片山工業労組女性委員会 大塚泰弘 匿名希望▼広島県 天野祐子 第一生命保険(株)福山営業オフィス有志一同 数下真由美▼山口県 福島ゆかり 福田裕子▼徳島県 沖佳代子▼愛媛県 四国中央市立新宮公民館▼高知県 大津小学校PTA▼福岡県 武田綾奈 (株)ジオ技術研究所 井口喜代子 匿名希望▼佐賀県 檜崎相 匿名希望▼熊本県 古島仁美 橋口響 岩本真生▼大分県 石堂泰史 井上義雄▼鹿児島県 近藤佳寿美▼沖縄県 大嶺さつき▼無記名＝31件

〈友愛援助申し込み〉 12月1日～12月31日

◆茨城県 十王中(日立市)◆埼玉県 大砂土東小(さいたま市見沼区)◆東京都 清新めぐみ幼稚園(江戸川区) 上北沢小(世田谷区) 神津中(神津村)◆神奈川県 山崎小(鎌倉市) 城南中(小田原市) 岡本中(南足柄市)◆富山県 小杉高(射水市)◆石川県 橋立中(加賀市)◆長野県 中込中(佐久市) 野沢中(佐久市)◆静岡県 湯日小(島田市)◆三重県 神社小(伊勢市)◆滋賀県 青山中(大津市)◆京都府 京都女子高(京都市東山区)◆福岡県 田主丸小(久留米市)◆長崎県 長崎商高(長崎市)◆熊本県 杉並台幼稚園(合志市)◆大分県 長浜小(大分市) 豊府小(大分市)

〈友愛援助申し込み・豪雨災害被災分〉

12月1日～12月31日
◆埼玉県 尾山台小(上尾市)◆東京都 南第四小(町田市)◆神奈川県 城南中(小田原市)

寄付してくださった方

六郷美佐子

大台達成校

12月 中野学園オイスカ高		
	浜松市西区	14,769,343
中央小	富山市	8,004,240
明治小	大分市	7,018,871
河西小	滋賀県守山市	5,027,372
三原台小	堺市南区	5,006,421
西小	埼玉県行田市	4,005,712
鶴沢小	千葉市中央区	4,001,636
みなみの小	東京都中央区	4,002,931
東原小	神奈川県座間市	4,022,457
登美丘西小	堺市東区	4,008,704
神田小	大阪府池田市	3,010,108
船場小	兵庫県姫路市	3,035,603
新町小	埼玉県鶴ヶ島市	2,037,482
鰯ヶ崎小	千葉県流山市	2,002,070
宮田小	長野県宮田村	2,024,043
小郡南小	山口市	2,019,219
入舟幼稚園・入舟保育園	長野県飯田市	1,003,769
竜峽中	長野県飯田市	1,001,224
常石保育園	愛知県常滑市	1,012,878
常滑市青海公民館	愛知県常滑市	1,025,455
八幡第四幼稚園	京都府八幡市	1,005,128
御船小	熊本県御船町	1,170,397

電話への対応時間 平日10時～16時に

新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が出されたため、ベルマーク財団は当面、事務所内での業務を縮小いたします。

それに伴い、電話での問い合わせに対応できるのは、平日の10時から16時になります。ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解いただきたく存じます。

コロナ禍に
負けないでね



ウイルス感染がおさまらない状況ですので、参加団体のみなさまもベルマークの仕分けや発送などについて、無理をなさらないよう、よろしくお願いします。